令和6年度 学校法人櫨蔭学園 聖光高等学校 通信制課程 学校評価書　　校長（廣川　晋）

1 学校教育目標

校訓	『常に善を追い求めよ 常に喜べ絶えず祈れ すべてのこと感謝せよ』 ～キリスト教主義による教育の展開～
めざす学校像	成長実感のもてる学校 ～「増えた、できた、広がった」が溢れる学び舎に～
教育目標	社会に貢献できる人材の育成 ～社会で花開く教育を実現するために～

2 現状分析

令和6年度の新入学は39名、転入学は21名、全日制からの転籍が16名、最終の在籍者数は198であった。昨年度末の175名から今年度も大幅な生徒数の増加が見られた。全国においても全日制高校の生徒数が減る中で、通信制高校を選択する生徒は毎年増加傾向にあり、高校生の12人に1人は通信制の生徒である。本校通信制課程は、不登校経験者に加え、学校の選択ミスや学校不適応、友人関係のトラブルなど、他校および本校全日制からの転校・転籍の受け皿としても大いに機能した。不登校経験者は、突発的に登校できない状態に陥ることがあるが、週一回のスクーリングならば、自分のペースで学習することができ、全体の出席率も72%～95%で推移した。単位修得率も　%と高く、今年度卒業年次まで至った生徒の大半が卒業し、新たな一歩を踏み出した。山口松風館高校や広域制の通信制高校が入学者を増やす中で、中学校での本校の認知度もかなり上がり、保護者のネットワークで本校通信制を選択していただくことが多くなっている。反面、様々な課題を持った生徒が大半であり、複雑で困難な事象への対応が増加傾向にあり、児童相談所、市町の子供相談室やスクールカウンセラー等専門機関との連携も重要になってきている。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

①学び続けるための基盤となるスキルと態度を育む[学び方を学ばせる 丁寧な添削で学習意欲を向上する 協働的な学びの場面を大切に
②心身の健康を保持増進する意識を醸成し実践力を育む[生活習慣の改善に取り組む 人間関係力を高める 特別活動や校外SCで伸ばす]
③変化する社会に対応し主体的な判断や行動ができる力を育む[安全で適切なSNS活用へ導く 自己肯定感を高める 進路学習に努め社会につなぐ]

4 自己評価　　5 学校関係者評価

領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	意見・要望等	評価
学習指導	・きめ細やかな面接指導と丁寧な添削指導による学習意欲の向上と学習習慣の確立	・分かりやすい面接指導と生徒個々の能力や適性を踏まえた添削指導 ・平日登校による基礎基本事項の学習を中心とした個別対応	4 総合実施率80%以上 3 総合実施率70%以上 2 総合実施率60%以上 1 総合実施率60%未満	3	・面接指導ではICT等の利用により、視聴覚を生かした分かりやすい指導が行われ、意欲的に学ぶ生徒が増加しており、出席率もよくなっている。添削指導では、個に応じた丁寧な指導が行われ、生徒がレポートに取り組む姿勢も意欲的であった。反面、学習面での個別対応が必要な生徒も昨年度以上に増えており、平日学習を充実させる必要性がある。	・ICT機器の使用は、一斉授業が困難な生徒への学習支援や意欲の向上につながっており、今後も積極的に使用をしてほしい。一方で、個別指導が必要な生徒も年々増加しており、指導時間の確保を検討してほしい。	B
生徒指導	・社会に貢献できる人材の育成 ・公徳心、公共心などモラルの向上と実践	・在校生に対し、通信制全職員による「見る」「聞く」の実践 ・学習環境の整備 ・関係機関、スクールカウンセラーとの積極的な連携 ・新入生を対象とした情報モラル教室の実施	4 総合実現率80%以上 3 総合実現率70%以上 2 総合実現率60%以上 1 総合実現率60%未満	4	・全教職員による、生徒に対する情報共有が組織的におこなわれた。問題行動に対する指導や、生徒観察など教職員間の連携をしっかりと取ることができた。 ・関係機関や保護者との連携を密にし、生徒の心のケアや支援を行った。（下松市こども家庭課・岩国児相相談所・田布施町町民福祉科等） ・生徒指導上の問題行動は1件（不正行為） ・様々な事象を抱えた生徒について、市の関係機関と連携を取りながら対応を行った。	・在校生が落ち着いた環境で学校生活が送れる状況にあると思われる。保護者がスクーリングを見学した際、在校生の学習状況がよいと感じた。	A
進路指導	・のぞましい進路選択に向けた自己の未来像の確立	・基礎学力の定着・ アルバイトの推進（勤労意欲） ・早期の進学指導（進学希望先、校内模試、資格取得、個別指導） ・SCや学校行事への積極的な参加	4 総合実現率80%以上 3 総合実現率70%以上 2 総合実現率60%以上 1 総合実現率60%未満	3	・出願書類の作成や論文指導にあたり、希望する生徒については面接やメールでの指導を行った。 ・なかなか志望校が決まらない生徒は、受験対策が遅れ気味であった。 ・大学進学を視野に、校内模試で自己学力を把握し、AO・推薦入試で6名(うち1名短大)、一般入試で3名の合格に至った。	・保護者が、子どもの受験を心配して、学校サイドに支援を求めるケースがあったが、進路部と担任が適切に対応した結果、合格に至り感謝された。その受験先であった東部高等産業技術学校は、県立のため授業料は低く、就職率は高いので、平成6年度の3年生も幾名か進学先の候補にいれている。	B
入学相談	・入学生徒数の確保 （新入・転編入） ・全日制との連携（転籍生徒）	・中学校、高校訪問、教育委員会 ・オープンスクールにおける入学相談（2回参加で面談完了） ・きめ細かい学校説明とスクーリング見学で安心感を与えた。 ・教育支援施設への広報活動	4 総合実現率80%以上 3 総合実現率70%以上 2 総合実現率60%以上 1 総合実現率60%未満	4	・令和5年度新入学生徒数37名確保 ・中学校だけでなく支援教室、近隣の高等学校などの訪問で通信制への関心が高まり、出願が増加した。入試出願人数　65名（新入、転・編） ・夏秋のオープンスクールで通信制のブースを設けた。夏と秋のオープンスクール参加で入学相談終了という取り組みをおこなった。 ・在籍数が過去最大の190名となった。	・事前に学校の内容を説明して、相談にものってもらえた。受験者数及び新入学者数の増加が見られた。県東部地域からの認知度も上がっており転入・編入生徒が増加した。	A
業務改善	学校の組織等 ・少人数の中で職員会議を実施し協働体制の強化を図る	・年間における各分掌からの課題の検討、改善、再構築　・業務改善に向けた会議を儲け、新たな課題への対応を行う。	4 総合実現率80%以上 3 総合実現率70%以上 2 総合実現率60%以上 1 総合実現率60%未満	3	・最優先すべき教科指導の工夫改善が、多忙な中で、停滞気味である。 ・長年にわたる業務内容を再検討し、今の状況と照らし合わせた内容を再度検討は行えたが、強化までには至らなかった。 ・生徒数増加に伴う、業務の工夫をICT機器の活用方法も含めて改善する必要が更にある。	・今後も組織力の強化を図ることが更に必要である。	B
	日常的な業務 ・校務の処理方法を見直し効率化を図る	・事前の調整、起案・決裁等の文書事務の改善 ・校務日誌および生徒情報の電子化による教職員共通理解	4 総合実現率80%以上 3 総合実現率70%以上 2 総合実現率60%以上 1 総合実現率60%未満	3	・生徒数の増加により業務が増加し個人にかかる負担が増加した。 ・少人数の中で、業務分担をしながら、個人がほとんどの校務分掌をこなしている。	・これまでの良いところを継承しつつ、改善できる部分について、検討をお願いする。	B
	勤務状態 ・綱紀保持の徹底教員の意識改革を図る	・管理職による啓発活動の促進 ・組織の一員として業務に向き合う姿勢の確立	4 総合実現率80%以上 3 総合実現率70%以上 2 総合実現率60%以上 1 総合実現率60%未満	3	・教員は使命感や責任感が強く、労を惜しまず取り組んでいるが、業務増加に伴い意欲も減退している。 ・担当業務については、日頃のコミュニケーションや会議等で共通理解を図ったが、不十分な面が見られた。	・人権意識を高め、保護者が安心できる指導の実践を求める。	B

6 学校評価総括（取組の成果と課題）

①学習指導は週一回の添削課題に沿った面接指導となっており、生徒が興味関心をもつ指導が行われるよう各教科担当で学習の提供、観点別評価の研究、指導法、ICTの活用などに取り組んだ。また、学校生活が少ない中、校外学習やバス旅行、定通体育大会、eスポーツ部、ボランティア活動など活動する機会を提供することができ、参加する生徒も増え、成長する姿が随所に見られた。生徒数が増加した結果、現状の教育課程、教室や教職員の数では、対応が困難な面があり対策が急がれるが、充分な改善には至っていない。

②卒業年次生の進路指導については、個別対応で面接練習を中心に意識向上をはかり、希望する進路に向けた指導を行い、ほぼ希望通りの進路決定がなされた。全日制の業務と平行した中で、進路指導の期間が不十分であった。就職においては、求人数も少なく、積極的に求人活動はさせていないが、ハローワークとの連携や縁故就職、アルバイトの継続など、自分に合った就労を選択することができた。今後は進路意識を高めるための手立てを更に進める必要がある。

③本年度も、本校通信制をより深く周知するため、志願者の在籍が考えられる市教委、不登校生徒支援施設、コミュニティーセンター等を中心に渉外活動をおこなった。学校の認知度も上がり、本校通信制を進めていただける中学校や保護者も増加し、入学相談等の問い合わせがかなり増加し、比例して、受験者も昨年度と同様に多い。また、公立定時制高校の再編や広域性通信制高校や県内の他の通信制高校と競合しても、選ばれる学校となりつつあり、日頃の募集活動が実を結び始めている。

7 次年度への改善策

学び続けるための基盤となるスキルと態度を育む[学び方を学ばせる、丁寧な添削で学習意欲を向上する、協働的な学びの場面を大切にする]
心身の健康を保持増進する意識を醸成し実践力を育む[生活習慣の改善に取り組む 、人間関係力を高める 、特別活動や校外SCで伸ばす]
変化する社会に対応し主体的な判断や行動ができる力を育む[安全で適切なSNS活用へ導く 自己肯定感を高める 進路学習に努め社会につなぐ]